

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1192800074		
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア入間グループホーム		
所在地	埼玉県入間市宮前町9-2		
自己評価作成日	令和6年2月29日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市久下1702番地		
訪問調査日	令和6年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節のイベントやご入居者から要望のあったレクリエーションを定期的に行っている。音楽や工作、料理等が得意な職員も多く、ご入居者へ楽しみの時間を多く提供が行えている。今年の3月には能登半島沖地震の募金活動を実施する予定で、ご家族様や民生委員、自治会関係者、その他地域の方との交流を図りたいと思っている。現在はご寄付いただいた方へ、お礼としてお渡しするためのポストカードやしおり作りをご入居の皆様と行っている。社内の教育環境も充実しており、職員が勉強できる機会は多くあります。日々、ご入居者のことを中心に考えた柔軟なケアを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西武池袋線の「入間市駅」北口から徒歩14分の場所に位置し、住宅地に囲まれた静かな環境にあり、2階建ての2ユニットから成るグループホームである。当ホームでは、季節のイベントや入居者からの要望に応じたレクリエーションを定期的に行っており、音楽や工作、料理などが得意な職員も多く、それを楽しみにされている。今年の3月は、能登半島沖地震の募金活動を通して、家族や自治会関係者、民生委員、地域の皆様と交流を深めたいと考えており、寄付をしていただいた方々には、お礼として入居者と一緒にポストカードやしおりを作って渡す予定である。本社ではしっかりとした教育体制が整っており、職員が研修を受ける機会が提供されている。当ホームは、入居者を中心に考え、柔軟なケアを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の掲示、新規職員には施設理念やグループホームの役割についての研修を受けている。	管理者は玄関に理念を掲示し、定期的な会議でその理念を振り返り、新入職員は新人研修で理念やグループホームの役割などを学んでいる。そして、職員はこの理念を理解し、日々の業務に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3月に募金活動を実施し地域の方とも交流を行っていく予定。	自治会に入会し、回覧板は自治会長が配布してくれている。訪問時には、管理者は地域の方々と会話をし、交流を深めている。これまで、自治会の秋祭りや消防訓練、芋煮会などに出席し、入居者も参加して地域の人々と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会主催の消防訓練への参加、廃品回収の協力や地域の助成金や寄付等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により会議は実施していないが、ホームの状況報告書を配布し、アンケートにてご意見等を頂いている。	コロナ禍の影響により、従来の運営推進会議は現時点では行われていないが、代わりに、ホームの活動状況などを知らせるために、訪問や郵送による連絡を月に1度行っている。自治会長宅には訪問して、情報をお渡ししている。また、「ホーム内の様子を知りたい」との要望もあり、写真を添えてお知らせしている。	今後も地域の方々とのつながりを深めるために、日々の活動や取り組みに関心を持っていただくための取り組みに心掛け、開催時には参加者からより活発な意見が出ることを期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	転倒等事故報告を行い情報提供に努めている。市の独自サービスの手続きをご家族様が変わって行っている。	管理者は、報告や相談のために市の担当者を訪問したり、事業所の実情や空床状況を定期的に報告している。また、市からのお知らせなどはメールで送られており、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人一人の行動の把握に努め、見守り声掛けを心がけている。身体拘束廃止会議、研修を3か月に1回行っている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1度開催し、研修を実施している。職員も正確に理解し、日々の業務で実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修や身体拘束廃止委員会を実施している。日常のケアの中でも不適切なケアに対しては個々の職員へ指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時に全スタッフが社内研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時には丁寧な説明を心掛けている。説明後にご不明点等はないか確認しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様に関わることは、ご家族様に適宜電話やメールを行い了解を頂いている。また、運営推進会議報告書にアンケート欄を設けている。ケアプランの説明や面会時に個別に対応している。	運営推進会議の報告書には、アンケート欄を設け、家族の意見を伺っている。また、ケアプランの説明や面会時にも、個別に対応している。頂いた意見は、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各階のフロア会議、3か月に1度全体会議を実施。その他、定期的に個人面談を実施。スタッフから提案されたイベントの企画等も可能な限り実施している。	管理者は、毎月各階のフロア会議や、3か月に1回の全体会議などで、職員の意見や提案を積極的に聞いている。提案されたイベントの企画なども可能な限り実施しており、個人面談も上期と下期に行い、職員の相談や話を丁寧に聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より人事評価シートの活用を開始。半年に一度評価を実施している。個々の条件に合わせ、夜勤回数や勤務条件の調整を柔軟に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マイスター制度により各自勉強できる環境が整っている。その他、新人、中途、管理者等階層別の研修も定期的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入間市内のグループホーム会が定期的開催されており各施設の状況報告や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階ではこまめな傾聴、他入居者との交流の場を増やす等の施設生活に慣れるよう支援を行っている。ご入居後、1か月目にカンファレンスを実施しケアプランの更新を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、数日でご家族様へ連絡し施設での生活の様子をお伝えしている。月に1度レクリエーション参加の様子等をお写真を郵送している。支援内容やご請求に関するご質問にも丁寧な説明を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にアセスメントを行い、ご入居様が望む生活をケアプランに活かしている。また、ご家族様に適宜ご様子の報告とアドバイスを頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係を構築し、屈託なく話し合える関係を築くようにしている。また、施設でのお手伝いをお願いし、役に立っていると感じて頂けるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナな影響で面会制限があったが、現在は自由に居室内での面会を再開している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で施設内での面会や近所の公園への散歩は再開したが、病院受診以外の外出は可能な限り控えていただいている。	コロナ禍の影響で外出の機会が減少しているが、近隣の公園に散歩に出かけるなど、外出支援に取り組んでいる。また、手紙を送ってくれる友人や毎週電話をくれる知人など、馴染みのある人々との関係を維持するために、支援を行っている。4月からは外出の再開を予定している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の配慮で皆で楽しめる話題を提案したり、レクリエーションを行う。また、入居者様同士のコミュニティを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方も、必要時体調の変化がないか電話を入れている。また、入院中の方のお見舞いに出掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りご本人が希望する生活をサポートさせていただいている。(喫煙者には喫煙スペースを準備する等)	一人ひとりの思いや意向を把握するために、毎月のカンファレンスを含む会議を開催し、話し合いを行っている。これにより、思いや意向の把握と共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの情報やご家族様からの情報、また、地域包括等利用して情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で、ご自身の生活パターンや出来る事出来ない事の把握に努めている。また、職員間でも適宜情報の交換を行い、ご自身の自立支援に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしさを大切に支援を心掛けている。カンファレンスにて、定期的に支援内容の振り返りを行い適切なサービスが実施出来ているか確認を行っている	介護計画の更新は6か月ごとに行い、サービス会議では職員も参加し、支援内容を振り返り意見や提案を話し合っている。ケアマネージャーは本人や家族の希望を取り入れ、それらを反映した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援内容や生活の様子を介護記録へ毎日残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者から希望のあったレクリエーションや食事など職員がイベントを考え実施出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	リモートにてフラダンス教室のボランティアを依頼する等、ご入居者が楽しんで参加できるイベントを実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変時は主治医や連携病院の受診が速やかに出来ており、適切な医療の提供が出来ている。往診医が月2回 訪問薬局週1回 訪問歯科週1回 来て頂いている。	協力医療機関の往診は月2回、歯科の往診は毎週、そして訪問薬局が週1回行われている。これまでのかかりつけ医の受診は、家族対応となっている。本人と家族の希望を尊重し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェックを行い、ご入居様の変化があれば主治医に報告している。薬剤師や訪問看護、訪問マッサージ等とも密に連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時の送迎や施設看護師よりナースサマリーにて情報提供を行っている。入院先のソーシャルワーカーや看護師、リハビリスタッフ等と連携を取り退院調整を進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族のご意向も尊重しつつも、特別な医療行為等が必要となる前の段階でご本人に適した施設への移動についても説明を行っている。医師や訪問看護と連携を取り施設でのお看取りケアも可能。	契約時に特別な医療処置が必要になる前に、適切な施設への移動についても説明を行っている。症状が重篤化した場合には、医師から十分な説明を受け、同意を得た上で、チーム全体でターミナルケアまでの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等の対応マニュアルの掲示を行っている。適宜報告連絡は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や水害訓練を年2回実施。コロナの影響により、施設内での訓練となる。災害時の連絡先や避難場所については掲示を行っている。	火災および水害に備え、年に2回の火災訓練や水害訓練を実施している。また、災害発生時の連絡先や避難場所を明示し、職員は通報、避難誘導、および消火器の使用方法について訓練を受けている。さらに、備蓄品は水害に備えて、高い場所に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中にもご本人の意思を確認しながら実践している。また、その方の人柄やこれまでの社会的役割を知りコミュニケーションに活かしている。また、恥ずかしい思いをしない様、入浴や排泄の場面等プライバシーを保つことが出来る様注意している。	管理者は、一人ひとりの尊厳を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないように言葉遣いや対応に細心の注意を払っている。また、職員は「ダメ」「できない」などの否定的な言葉を避けるよう心がけている。ケアの過程では、本人の意思を尊重しながら丁寧に接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中に意向や希望をお聞きすることが度々ある。実現可能なことはご家族様や職員が連携を取り実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者中心のケアを行うよう毎月のフロア会議等に職員へは説明している。また、ご自身の好みを理解し、レクリエーションや行事、日常の生活に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容にてヘアカットを行っている。ご家族と連携を取りその方の好みの衣類やシャンプー、化粧品等を持参して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや食器拭きなど出来ることはご入居者にも一緒に実施してもらっている。季節の献立やイベント食の実施を行い食事の時間を楽しんで頂いている。	季節の献立や特別な行事食、お楽しみ会を提供している。また、地元の食材や郷土料理、赤飯なども注文し、入居者が食事を楽しめるよう配慮している。食事の準備や食器の片付けなど、本人の力を活かし、一緒に手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事・水分量の記録、一人ひとりに合わせた食事形態(常食～ミキサー)での提供。使用しやすい食器等の準備を行っている。毎日の喫茶の時間にはその方の嗜好に合わせた飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が毎週金曜日に訪問している。その都度入居者様の状態やアドバイスを受けている。口腔体操や磨き直しを行い清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、適切なオムツやパットを使用している。必要な方には見守り、トイレ誘導等の支援を実施。毎日の排泄状況は記録へ残している。	排泄チェック表を用いて、個々のパターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている。適切なおむつやパットを使用し、2人介助が必要な場合でも、トイレへの誘導を最大限に行い、排泄の自立を促す支援を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔を把握し、水分の摂取を促したり、腹部のマッサージを行っている。必要時には主治医と相談し便秘な方には内服による調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施。皮膚の状態により清潔を保つため3回に増やしたり、排泄による汚染の際シャワーを行う等清潔を保つよう支援している。また、入浴の際は事前に声かけを行い同意を得てから開始している。拒否の場合は入浴時間を変更する等して対応している。	週に2回の入浴支援を提供し、月曜から土曜までの午前中に3名ずつの対応をしている。入居者の希望にできる限り沿うよう努め、長湯を好む方や入浴を拒む方などには入浴時間を調整したり、皮膚の清潔保持上、週3回の入浴が必要な方への対応など、個々の状況に応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間はご本人の意志に任せている。ゆっくり休んで頂けるよう、室温調整や寝具の選択を行っている。不眠の方に温かい飲み物の提供や傾聴を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携を取り服薬支援を行っている。薬剤師からは定期的に薬の効果や副作用についての説明がある。介護職員は必ずダブルチェックを行い安全に服薬支援が行えるよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意であったり好みのレクリエーション(歌やトランプ、書道等)を実施している。洗濯物たたみや食器拭き、シーツ交換等のお手伝いも職員と共に実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外に買い物には行けない。天気の良い日は近所の公園をお散歩している。	コロナ禍で外出が制限されていたが、近隣の公園に散歩に行くなど、外気を楽しんでいただいている。5月からは、近くのコンビニへの買い物など、外出範囲を広げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身のお金は金庫に管理しており、必要時お出ししている。コロナの影響で買い物に出かけることが出来ずお金を使う機会が減少している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子や孫、ご友人からお手紙が届くことがあり速やかに届けるようにしている。ご自身で読むことが難しい方は隣でお手紙の内容をお伝えしている。定期的にお電話をいただくご家族様もいらっしゃり取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部は毎日清掃し清潔な環境作りを行っている。皆様が好きなお音楽を流したり、レクリエーションで作成した季節の装飾品等を掲示している。	フロアにはテーブルや椅子、テレビ、新聞、雑誌、DVD、CD、ソファなどが配置され、居心地の良い環境を提供している。季節ごとの作品がフロアや廊下に展示されており、リラックスして過ごしている。空調も適切に管理され、好みの音楽を流したり、十分な採光も確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの人柄や日頃のご様子、気の合ったご入居者同士で思い思いに過ごせるよう席を工夫している。廊下にはベンチイスを配置し静かなに過ごせる場所も確保をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真やテレビを設置して頂き、ご自身のお部屋としてゆっくりすごして頂けるよう支援している。馴染のある物を置いて頂き、安心して頂ける様工夫している。	入居時に、快適に過ごしていただくよう、お気に入りの品々を持ち込みいただいている。アルバムやタンス、写真、テレビなどが置かれている。また、清掃は毎日定期的に行われ、できる方は一緒に参加している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理整頓を心がけ、安心して過ごして頂けるよう支援している。また、ご自身で出来る清掃や片づけはお手伝いをお願いしている。		

(別紙3(2))

目標達成計画

事業所名: ヒューマンライフケア入間グループホーム

作成日: 令和 6年 3月 29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナ禍の影響により、従来の運営推進会議は実施できておらず、現在は2カ月に1度報告書を関係者様に郵送を取っている。	・運営推進会議を施設内で実施できる環境を整える ・地域の方と交流できる環境を整える	・従来の運営推進会議を実施する ・ご家族様や地域の方との交流会を実施する	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。